

大項目	評価項目	自己評価平均	自己点検・自己評価総括	総合評価	学校関係者評価内容	関係者評価後の学校側の考察・対策
教育理念・目的・人材育成像	I-1 学校の理念・目的・人材育成像は定められているか	3	教育理念を教職員に周知させるため、玄関に掲げると共に、常に学生が目にする学生便覧に明記しており、その内容は法との整合性をもち、看護専門職についての考え方がわかるものである。教育目的は、その教育理念をうけて設定されており、看護教育についての考え方、学習・教育観そして学生観がわかるものになっている。また、教育目標は教育理念・教育目的との一貫性を図り、6つの目標から成っている。その中には、人間理解のための豊かな人間性の育成、専門職業人としての能力の育成、継続教育との関連性が具体的に示されている。また、教育目標毎に、学年別到達目標が定められており、目標内容と到達レベルがわかりやすくなっている。保護者、関係業界へは、年度初めに学生便覧、学校パンフレット等を配布し、保護者会や会議等を通じて本校の教育理念等についての理解を図っている。	3.5	・学生は看護師を目指したいというきちんとした目標を持っている。教育として最終的に患者が安心できるような人間性を育てているという部分ではよくなされていると思う。 ・評価が可能となる資料とその活用は充分か	各学年ごとに保護者会を実施し、学校の教育に対する考えや各学年で学ぶ内容・方法の特徴を伝える場を設けている。 実習施設で実施している実習指導者会議において、学生の状況説明をし、目標達成に向けてどのように支援していくか話し合っている。
	I-2 学校の理念・目的・人材育成像・特色などが学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか (* 関係業界とは高校、病院、実習施設等)	2.9				
	I-3 各学科の教育目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	2.8				
学校運営	II-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	3	年度初めに出される教育事業方針、重点目標をもとに、管理目標を掲げそれにそって、学科での目標、個人目標を設定し、計画立案、実施、評価を行っている。また、意思決定に関する会議については、学則、学費異動、事業計画、教育方針、予算等に関しては学校運営会議を、学校運営、教育状況、学生状況、管理等に関しては管理会議を、カリキュラム等に関しては教員会議を、その他必要な内容については臨時会議、各委員会を設けて話し合いを行い、その結果について必要な事項については情報共有している。学生の学籍管理、成績管理については、学事システムを導入している。また、学校運営に係る書類作成などは、共有フォルダーを用いて業務の効率化を図っている。	3.5	・教育事業方針、重点目標の設定、管理目標とのつながりはどのようになっているのか	看護統括副校長より看護学科のある4校全体に教育事業方針・重点目標が示され、その方針に基づき学校の管理目標を掲げている。それにそって、学科での目標、教員の個人目標を設定している。中間評価、年度末評価を実施しPDCAサイクルを回している。
	II-2 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	3.1				
	II-3 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.8				
教育活動	III-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	2.3	教育課程の編成については、教育理念をもとに行われているが、III-1の評価から、その認識が低いことがいえる。本校カリキュラム構造図等については、学生便覧に分野ごとの位置づけを記しており、それに基づいて、科目の教授・学習目標、教育内容、実習目的、目標を明確にしている。また、シラバスを作成することで、授業科目内容の見直しや学生の学習準備等に役立っているが、教育課程編成についての認識を高めていく必要がある。また、III-2の評価が低い結果となっている。 教員の専門性を高める体制として、4校合同での教育研修が行われることや、希望する研修や学会出張が認められていることから、その機会を利用して自己研鑽に努めている。授業を展開するにあたっては、授業内容に適した方法を工夫し、教員研修の中で授業研究などを行い、看護実践能力を備えた学生を育成することを目指している。しかし、まだ、教員個々に学んだことを十分取り入れていくことは難しく、試行錯誤している段階にあると考える。望む看護師像に近づけるような教育を目指して、今後は具体的にどのように自分たちの教育方法に繋げていくかということを検討していくことが必要だと考える。	3.3	・様々な教育方法を取り入れているにも拘わらず、自己評価が低いのはどうか。 ・マンパワーの不足を感じる。研修に行きたくても行けない状況があるのではないかと。教員の忙しさを感じた。 ・教員のワークライフバランスはどうか	教員の自己評価が低いのは、日々、学生と向き合い、指導方法・教育方法を吟味しているものの、すぐには結果につながらないことも理由の一つとして考えられる。学生は長いスパンの中で少しずつ成長していくが、貪欲に自己の教育を振り返っている結果であると考え。教員会議やミーティングで教育方法について検討する機会が多い。 教員のワークライフバランスについては時差出勤を取り入れているが、時間内に業務が終了出来ないことがある。業務の整理等を行うなど、具体的に目標として掲げていく。研修については推奨しており、希望に参に沿って参加している。
	III-2 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	2.3				
	III-3 授業評価の実施・評価体制はあるか	2.8				
	III-4 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	2.6				
	III-5 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	2.7				
学修成果	IV-1 就職率の向上が図られているか	3.7	就職率は100%である。退学率・留年率は全体の6%程度であり、IV-3の評価が低いことから教員は退学者をもっと少なくしたいという認識があるといえる。近年、入学生の基礎学力や対人関係やメンタル面、職業意識など状況に合わせて、専門知識を修得するにあたってはかなりの支援を行っているが、複数の未履修科目を抱え、やむなく進路変更を考える学生も後を絶たない現状にある。IV-4については、高校時代に部活やボランティア活動などを通じて社会で活躍している学生に関する情報を、高校との連携により把握できるようにすることが必要と考える。また、学校生活外において学生の社会的な取り組みについて情報を得、支援していく体制づくりが必要である。	3.5	・様々な状況にある学生を100%合格させるのはすごいことである。	個々の状況にある学生の支援については良い評価を受けている。しかし、学生が看護師資格取得できるよう、学生一人一人の状況に合わせて支援を継続していく必要がある。
	IV-2 国家試験合格率が良好であるか	3.4				
	IV-3 退学率の低減が図られているか	2.2				
	IV-4 在校生の社会的な活躍を把握しているか	2.3				
学生支援	V-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.1	学生相談については、カウンセラーを置き3回のカウンセリングを実施している。学生の状況によって教員がカウンセラーへ橋渡しをしたり、学生個々でカウンセラーとやり取りをしたりしている。学校生活で問題のある学生に対しては、担任を始めとする教員が時期を逸することなく保護者へ連絡を取り合いながら、互いに現状に対する共通認識をもち学生支援にあたっている。特に学校生活状況が気になる学生(態度面、精神面)については、高校での学校生活に關しての情報を得て学生指導に役立てることもある。就職に関しては、就職先の情報等を図書室やサロンに置き、学生が目にしやすいようにしている。就職に関する相談については、教務部長、担任が行っている。2年生の3月には関連病院見学や説明会を行い、就職活動しやすいうようにしており、3年生の6月位には意思決定を促している。また、クラス担任制をとっていることにより、学生の変化に早く気づくことができ全職員で情報共有を図るなど、学生支援に対する職員意識は高い。修学支援制度としては、学校独自のものは無い。県の修学金、学生支援機構からの奨学金制度があり、6割程度利用している。また、専門実践教育訓練給付金制度や就職先からの奨学金制度も受け入れている。	3.8	・カウンセラーを設置するなど一番きちんとできてきている。 ・カウンセリングの利用状況はどのくらいか明確にしておく ・推薦等で早い時期に入学が決まった学生には、今年からeラーニングを導入し学力保持に努めているのは良いことだ。	カウンセラーは2名設置し、それぞれ月1~2回実施している。利用状況としては1回3時間で平均6名の学生が利用している。学生支援に必須であるカウンセラーとの連携を今後も継続していく。 eラーニングについては入学後も活用しており、今後、活用もさらに検討していく予定。
	V-2 学生相談に関する体制は整備されているか	3.3				
	V-3 保護者と適切に連携しているか	3.6				
	V-4 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3				
	V-5 修学支援体制が整っているか	3.1				
教育環境	VI-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	看護師養成所の運営ガイドラインの別表9に準じると共に、シミュレーション教育の充実を図るため、校内演習、技術評価、自己練習等で活用できるように整備している。臨地実習においては、指定規則に定められている要件に応じた実習施設を開拓し、毎月実習指導者会議を設け学生の実習目標の到達に向け組織的連携を図っている。また、年1回実習指導者講習会を実施し、学生気質、実習指導方法等への理解を深めてもらっている。避難訓練を年1回実施している。また、学生便覧に災害時の行動として掲載、実習時の防災マップを作製している。	3.5	・1、2科で実習室を共有しており、学習環境をもう少し良くしたほうがいい。 ・教材等の今後の整備計画はどうか。	教育環境については実習室の拡大や演習室の確保など構内のレイアウトを検討し、学生が実践力を向上できるようにハード面を整えていくよう計画したい。シミュレーション教育を推進していくため、シナリオ内蔵ハイブリッドシミュレーターを1台レンタル予定である。
	VI-2 学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか	3.1				
	VI-3 防災に対する体制は整備されているか	3.3				
学生募集	VII-1 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	3.2	過大な広告を行わず適正な資格取得及び就職状況などの情報を正しく伝えている。また、各種媒体、入学案内、各種ガイダンス、オープンキャンパス、ホームページを活用し教育内容を正しく理解していただくよう努めている。	4		学生募集に関しては適切な情報を提供している。
	VII-2 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	3.3				
財務	VIII-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.9	毎年、事業計画に基づき予算が作成されている。財務は法人本部と各学校の財務の2重体制をとっており、学校の財務体制管理が行われている。また、決算及び予算について理事会で承認されており、会計監査は適正に実施されている。	3.8		予算は収支状況を確認し、事業計画をもとに検討している。会計監査を実施し、財務基盤は安定している。
	VIII-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.9				
	VIII-3 財務について会計監査が適正に行われているか	3				
法令遵守	IX-1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.1	法令遵守は法人全体でなされている。具体的には保健師助産師看護師法指定規則及び私学専修学校設定基準に遵守しており、毎年①保健師助産師看護師法指定規則第14条 ②学校基本調査 ③専修学校実態調査での報告を行っている。個人情報保護に関しては法人全体の規定を設けており、教職員及び外部講師、学生が遵守すべき事項が定められている。臨地実習における学生の個人情報保護については、SNSの取り扱いも含め指導を徹底している。	3.8		法令遵守している。
	IX-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.7				
社会貢献・地域貢献	X-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2.7	学校を関連施設に提供したり、研修会を実施したりしているが、積極的に地域とのつながりを図るような取り組みは現在行っていない。学生のボランティア活動に関しては、ボランティア活動の情報提供を行い推奨しているが、積極的に取り組んではいない。	2.5	・ボランティア活動については、学生の自主性にまかせているが、災害支援の情報提供など学生へ伝えていくとよい。	ボランティア活動を推奨するため、実習病院でのボランティア募集の情報提供、地域行事、災害支援に関する情報提供などを行っている。和白地区の美化活動を計画する予定。
	X-2 学生のボランティア活動を奨励しているか	2.3				